

双京構想の実現に向けて（取組方針）

平成26年8月

京都の未来を考える懇話会

1 はじめに

東日本大震災を一つの契機として、東京にあらゆるものが集中しているわが国のあり方が問題とされています。このような中、皇室に関しても東京に皇室の皆さまがいらっしゃる現状について、安心・安全の観点から本当によいのかということを考えることが必要ではないでしょうか。

京都は、東京以外に全国で唯一御所を有し、千年の間、天皇がお住まいになり、宮中文化が育まれ、今もなお、日本の歴史・文化の中心として多くの人々を魅了し続けています。その一方で、全国的には、経済効率が優先される価値観の中で、伝統的な文化の継承が困難になってきています。

こうした中、皇室とともに歩んできた京都が、日本人の心と文化を体現するもう一つの首都として、日本の伝統や文化を東京とは異なる価値観で守り育てていくことができれば、バランスのとれた豊かな国づくりにもつながるのではないかと思います。

このため、「京都の未来を考える懇話会」では、平成25年5月に発表した「京都ビジョン2040」において、日本にとって大切な皇室の弥栄（いやさか）のために、東京だけでなく日本人の心、そして日本文化のふるさとである京都の地に、皇族の方にお住まいいただくことを願う「双京構想」の実現をうたい、この間、有識者などのご意見を伺いながら具体的な検討を進めてまいりました。

皇室ゆかりの地として皇室の弥栄を願い、京都として双京構想の実現に向けて取り組めます。

2 双京構想の実現に向けて

双京構想の実現に向けては、一つ一つ実績を重ね、京都にお住まいいただける環境を整えていくことが大切です。

そのため、次の考え方に沿って、取組を進めてまいります。

- ◆ 双京構想を、京都のみならず全国の人々に知っていただき、皇室の方々に京都でもご公務を行いお住まいいただきたいとの願いを、京都から日本全体へと広めていくこと。
- ◆ 景観整備等、文化都市としての佇まいを大切にし、皇室の方々をお迎えするのにふさわしいまちづくりを進めること。

- ◆ 皇室の方々がご出席される国際会議等の京都開催や政府への京都での宮中行事の実施の働きかけなどにより、皇室の方々が京都へお越しいただく機会を増やし、1週間、そして1か月間という長期のご滞在へとつなげ、将来的にお住まいいただけるよう取り組んでいくこと。

3 具体的な取組

～京都における取組として～

「京都の未来を考える懇話会」メンバーをはじめ有識者などによる双京構想の発信や講演会の開催などあらゆる機会を捉えて、京都内外で双京構想の実現への機運の醸成を図っていきます。

また、景観資産の保全・再生・創造、歴史的風土の保存・活用などにより京都らしい品格を高める取組を推進し、皇室の方々をお迎えするのにふさわしいまちづくりを進めてまいります。

そして、皇室の方々がご出席される国際会議をはじめとする様々な催しが京都で開催されるよう取り組むとともに、「京都の未来を考える懇話会」など各種団体から、政府に対し双京構想の実現に向けた取組を要望していきます。

～政府への働きかけ～

皇室で行われているご公務は実に多種多様ですが、中には東京だけでなく、むしろ京都で行われたらよりふさわしいことも含まれているようにみられます。

そこで、そのようなご公務を京都で実施され、皇室の方々が京都へお越しいただける機会をこれまで以上に増やしていただくよう政府に働きかけていきます。

具体的には、京都に御所があること、和風のおもてなしが可能な京都迎賓館があることを踏まえ、東京で行われているご公務の一部、例えば、国賓等のご接遇や園遊会、叙勲者の拝謁行事、歌会始、講書始などの文化的な行事の一部を京都で実施いただくことを要望します。

加えて、日本文化の再生のため、明治以降行われなくなった五節句（節供）など伝統的な宮中行事を、古式に則って京都で復活していただくことを要望します。

こうして、京都で皇室の方々のご公務などが増えれば、長期にご滞在いただくための施設の整備が必要になってきます。それに向けて長期的な展望のもとに検討を進めていただくことについて、合わせて政府へ働きかけていきます。